

平成 22 年 5 月 12 日

沖縄県水産課長 殿

宜野座村産業振興課長
(公印省略)

平成 22 年度離島漁業再生支援交付金の実施状況の公表について

依頼のあったみだしのことについて、別紙のとおり提出します。

別添参考様式 1

離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：宜野座村

協定締結集落名：松田・宜野座・漢那集落

交付金額：3, 944千円

協定参加世帯数：78世帯（うち漁業世帯29世帯）

2. 協定締結の経緯

本村は、集落ごとの結束や連帯意識が非常に強い地域である反面、集落を越えた協業・協働意識が希薄な傾向にある。その中で、漁業を取り巻く環境は、資源の減少による漁獲量の低迷や漁業就業者の高齢化等の課題を抱えている中で、水産資源の効率的な利用や漁業者の連帯意識の向上を図り、漁業活動が継続的に取り組める環境を整える必要があることから、松田・宜野座集落・漢那集落は集落協定を締結し、共同で離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

・種苗放流

本村の沿岸には多くのホンダワラが生息し良好な藻場を有しており、以前からウニ漁が盛んに行われている。しかしながら年々その数が減少傾向にあるため、沖合約500mの良好な藻場に稚ウニ7,000個を放流した。

・海岸清掃

宜野座海岸周辺ではモズクの養殖が行われており、良好な漁場及び海岸の保全を図るため2月6日、28人が参加し宜野座漁港周辺を中心に漂着ゴミや不法投棄ゴミの撤去、草刈り等を行った。

・浮魚礁の製作・設置

マグロやカツオ等の漁獲量増大を図るため、パヤオ漁の従事者を中心に沖合約54km（北緯26度15分96秒、東経128度27分75秒）の地点に表層浮魚礁1基を設置した。

②集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

・体験漁業

海ブドウの販売促進と養殖に理解と興味を深めてもらう目的に、3月19・20日の2日間開催された村産業まつりの会場において、模擬養殖場の展示と大型水槽を設置して海ブドウ摘体験を実施した。

・販路拡大PR

消費者に魚食の普及と地元で水揚げされた水産物の地産地消を推進し、販路拡大に繋げるため、3月19、20日の2日間開催された村産業まつりの会場において、マグロ解体ショー、モズク流しを行った。

4. 取組の成果

・種苗放流

稚ウニを放流することで資源の回復が図られ、安定した収穫を見込むことが出来る。次年度以降はさらに放流個数を増やして継続して実施し、収穫規制等も検討し、自然増殖できる環境づくりを進めていく。

・海岸清掃

海辺のゴミ・流木等の除去により、満潮時の出漁に対する不安が払拭され、船舶航行の安全確保が図られたほか、モズク養殖場の環境保全が図られた。さらには、構成員の海岸環境の美化・保全意識への涵養が図られた。

・浮魚礁の製作、設置の設置

3月に設置したため効果が出るのは4～6ヶ月後になると思われるが、既に小魚の定着が確認されており今後、マグロやサワラなどの大型魚の水揚げが期待される。漁場が増えたことで、今後の漁獲量の増加が見込まれる。

・体験漁業

村産業まつりの会場において模擬養殖施設を設置し、生産者が養殖方法の説明等を行うと共に、大型水槽を設置して海ぶどうの収穫体験を実施し、海ぶどう養殖に対する興味と理解を深めた。このような取組が将来的に新規漁業者の拡大や後継者育成、消費拡大につながるものと期待される。

・販路拡大

村産業まつりとタイアップしたことで、村内外の多くの消費者に地元で水揚げされたマグロやモズク、海ぶどうをPRすることができた。モズク流しでの無料試食では、子供からお年寄りまで大勢の客が楽しみ、今後の地産地消、消費拡大が期待できた。

平成22年度離島交付金実施状況
市町村名 宜野座村

集落協定策定集落数 ①	3
交付対象集落数 ②	3
実施集落率 ①/②%	100%

1 集落協定締結数	協定締結集落名	松田・宜野座・漢那				
	一般・特認の別	一般				
	協定を策定したセンサス上の集落数 ①	3				
	協定参加世帯数	73				
	うち漁業世帯数	73				
	実施集落率 ①/②%	100%				
2 集落協定に位置づけられた活動内容	漁場生産力向上の取組	3				
	種苗放流	○				
	藻場・干潟の管理・改善					
	産卵場・育成場の整備					
	水質維持改善					
	植樹、魚付き林の整備					
	海岸清掃	○				
	海底清掃					
	漁場監視					
	その他(バヤオの製作・設置)	○				
	創意工夫を活かした新たな取組	2				
	新たな漁具・漁法の導入					
	新規漁業への着業					
	新規養殖業への着業					
	協業化による経営収支の改善・安全性の向上					
	低・未利用資源の活用					
	品質の均一化に向けた取組					
	高付加価値化					
	流通体制改善					
	簡易加工					
	海洋レジャーへの取組					
	伝統漁法の取組					
	漁労技術の向上の取組					
	販路拡大	○				
	その他(体験漁業)	○				
3 当該年度の交付金額とその使用方法	交付金額(千円)	3,944				
	うち前年度からの繰越額	0				
	集落協定の管理体制における担当者の報酬	20				
	交付事務の委託料	248				
	話し合い・備品に関する経費					
	漁場生産力の向上に用いる経費	3,068				
	種苗放流	141				
	藻場・干潟の管理・改善	0				
	産卵場・育成場の整備	0				
	水質維持改善	0				
	植樹、魚付き林の整備	0				
	海岸清掃	20				
	海底清掃	0				
	漁場監視	0				
	その他	2,907				
	創意工夫を活かした新たな取組に要する経費	608				
	その他雑費	0				
	積立・繰越	0				

◆種苗(稚ウニ)放流



県栽培漁業センターから搬出



放流した稚ウニ(2~3cm)

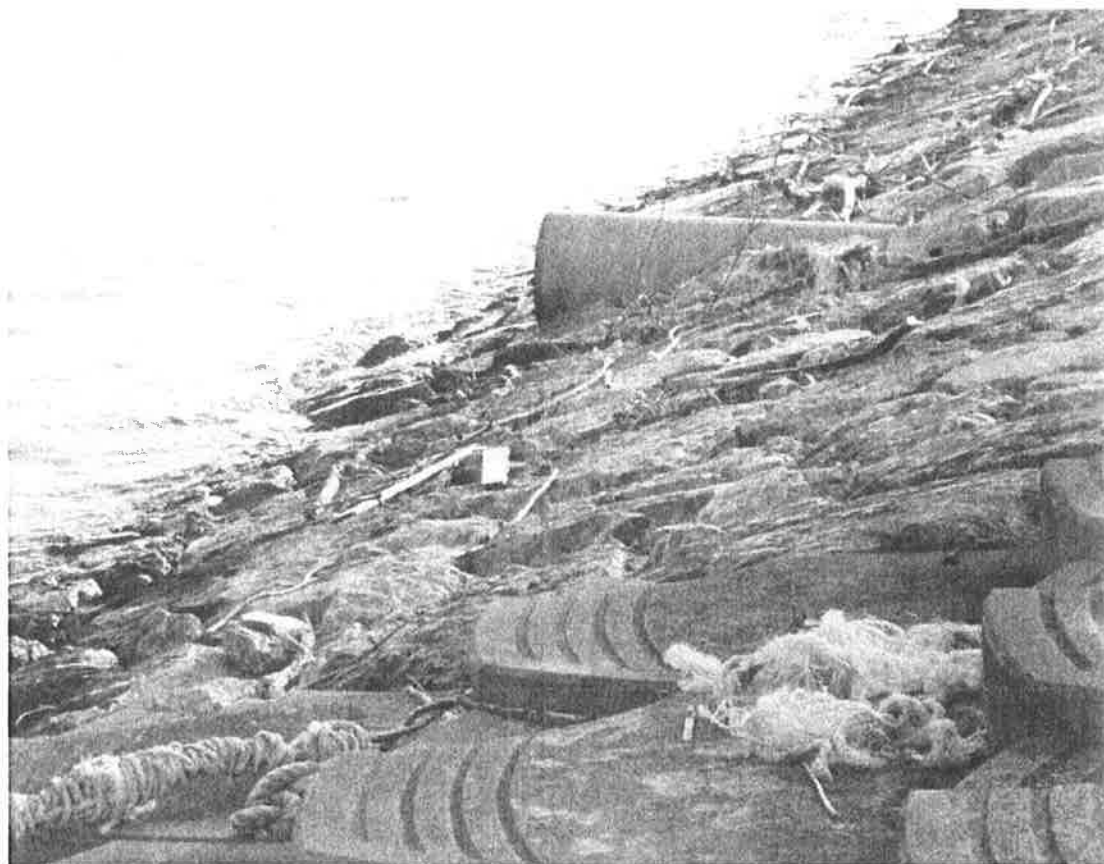


放流に向け出港準備



潜水による放流作業の様子

◆海岸清掃

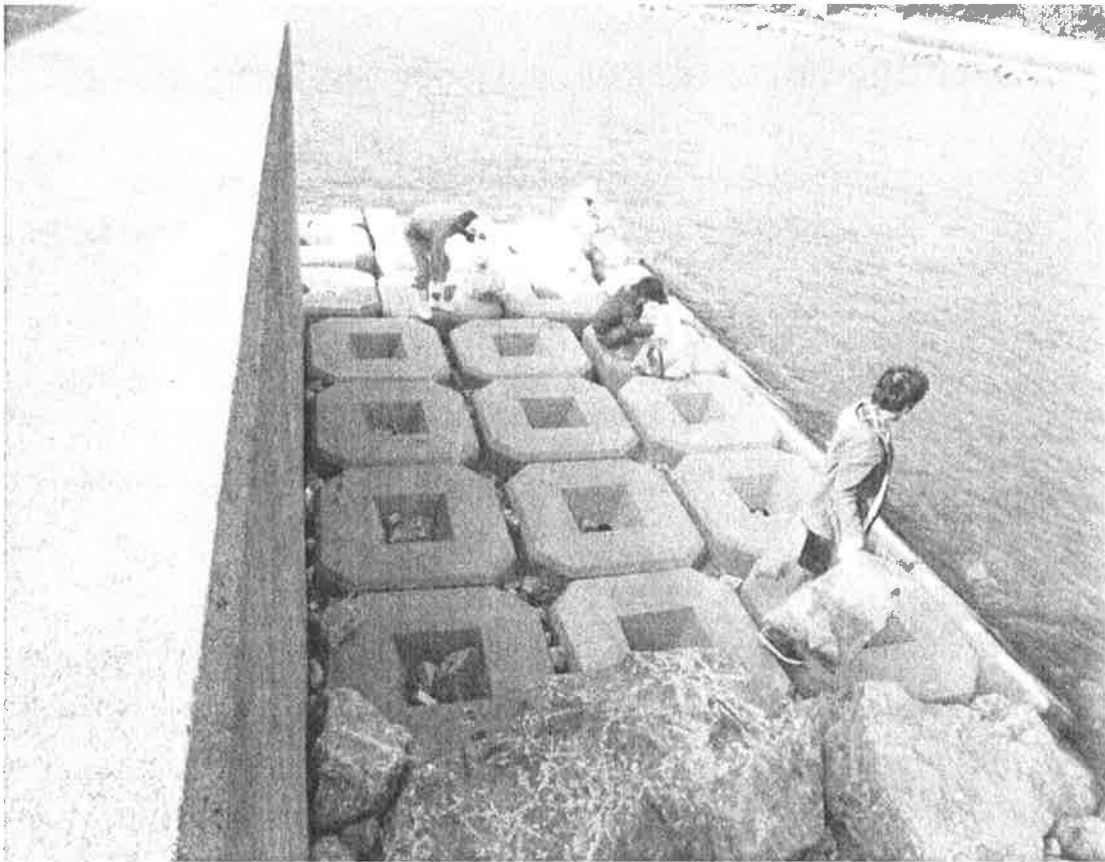


清掃前は多くの流木や漂着ゴミが散在

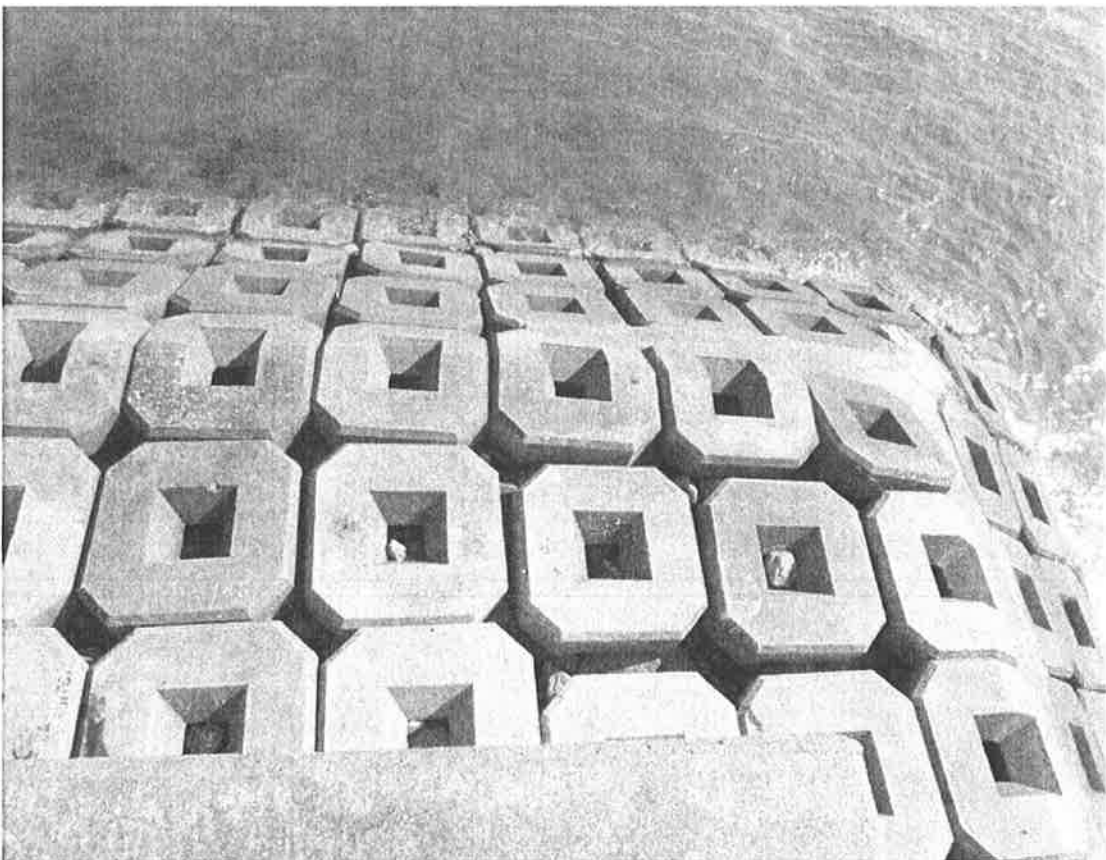


清掃の様子

清掃後の状況



釣り人などが投棄したゴミ回収の様子



◆浮魚礁の製作・設置



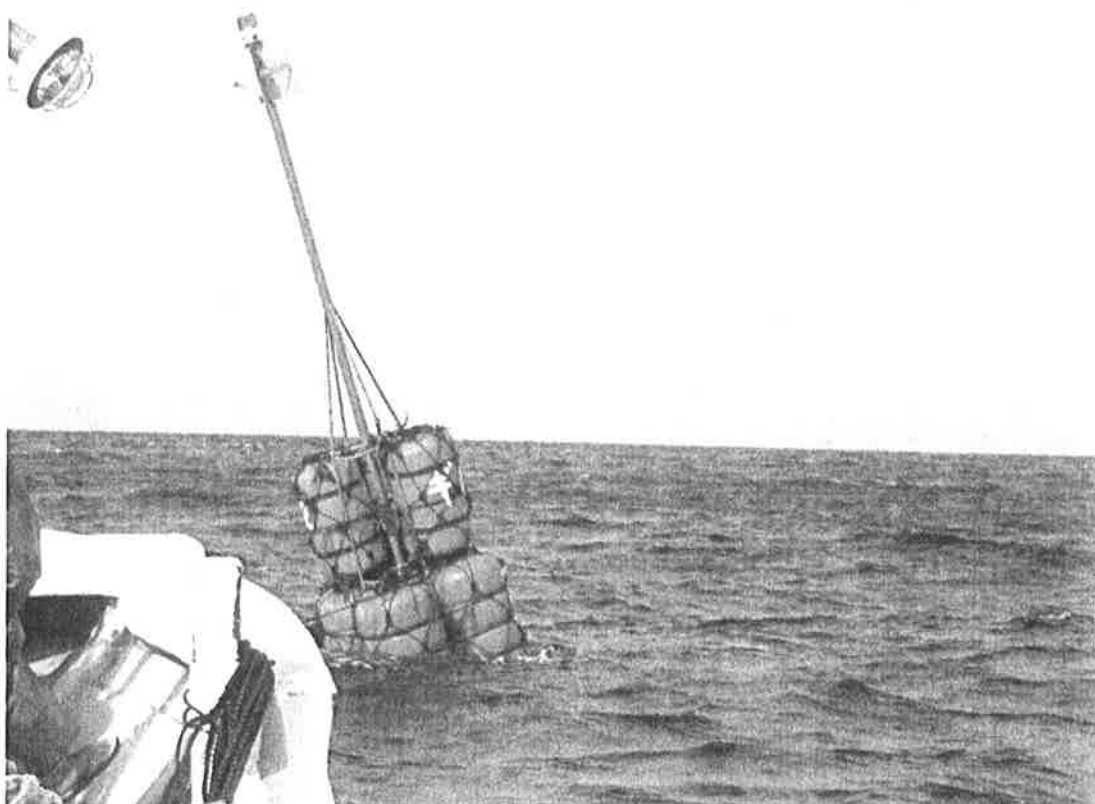
構成員による表層浮魚礁の製作の様子



30マイル沖を目指し漢那漁港を出港



アンカー投入の様子



沖合30マイルの地点に設置完了

◆販路拡大



村産業まつり会場において3/19・20の2日間実施



モズク流しを楽しむ子供たち

◆体験漁業



村産業まつり会場において3/19・20の2日間実施



模擬養殖場の展示



収穫体験の様子



収穫した海ぶどうを手にする子供



マグロ解体ショーの様子



前日パヤオで水揚げされた45kgのキハダマグロ